



鳥の魅力

1) ナベズル

NHKで5～6年前放映されたナベズルが春、食を求めて8千メートルのヒマラヤ山脈を50～60羽のグループで越える映像を見て感激し、それ以来野鳥に興味を持ち、その権威の友人と時折野鳥観察の参加する様になりました。友人から送られてきた興味深い写真を紹介します。



2) マガモ

マガモは子育てはオス、メス両親ですが、雛になると、何匹の雛を引き連れて泳いでいる姿を池などで見る事がありますが、全てメス親が引き連れているとの事、オス親に何故か雛が離れるとのことです。



3) サンコウチョウ

サンコウチョウは杉などの高い小枝に巣作りをして卵から孵った雛をオス、メスの親鳥が交互に虫やミミズなどの餌を引っ切り無しに運んで子育てをします。約20日ぐらいで卵から巣立つようです。オスは尾が長く、メスは短くつがいと解らない姿ですがきれいな野鳥です。



4) セイタカシギ

愛知県鍋田干拓地に1961年絶滅危惧種に指定されているセイタカシギが東南アジアから飛来し6月の風雨の中で田んぼ中に盛り土の巣を作りそこに抱卵し雛の子育てが、風雨やカラス、サギ、キジ、蛇など多くの外敵に脅かされながら、必死に抵抗し、この水辺の田んぼで育てる様子がいかにもいとおしく、足長の細いからだに強く生きる姿に全く心が打たれます。生育して生き残るのは約1～2割との事、20日間の現場に通い粘って写真撮影をした某友人に敬意を表したい。



5) コシアカツバメ

フィリピンなどの東南アジアから渡って来たコシアカツバメは4月頃日本にきて、カ、ハエ、昆虫、ミミズなど餌をとり、巣作りし卵を生み、抱卵、雛を育てる一連の行為は他のツバメと同じですが、大変巣作りに特長があるようです。人家の天井にくっつく様に泥と藁とまぜた泥粘土を口でせっせと運び徳利のような形の巣作りが、何とも言えないような巧みさが微笑ましく、スズメギヤングに占領されても、また隣に同じような巣を完成、4～5羽の雛を約1ヶ月間で育て飛び出させることは生命の摂理とは言え感銘させられます。

